
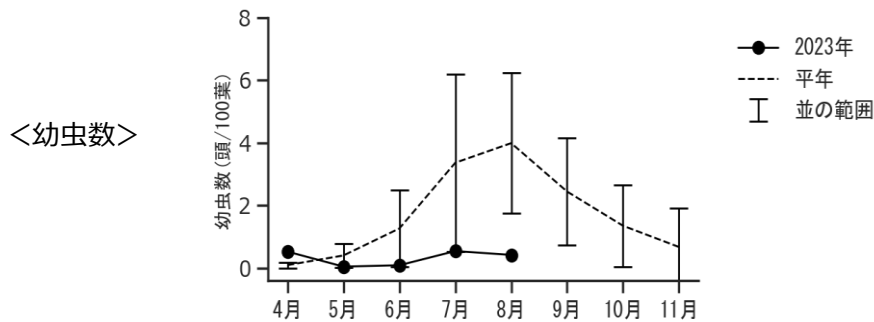
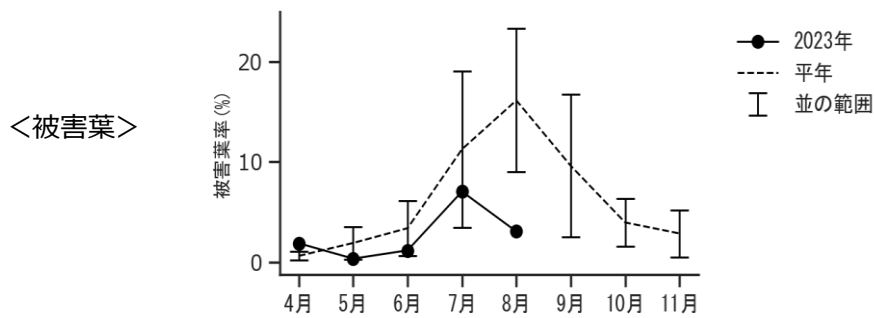


作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	イモキバガ (イモコガ)		
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	やや少	
予 報	8 月からの増減傾向	↓	
	9 月の発生量 (平年比)	やや少	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の発生推移




・発生ほ場率62.5% (平年 : 98.6%)

防除のポイント

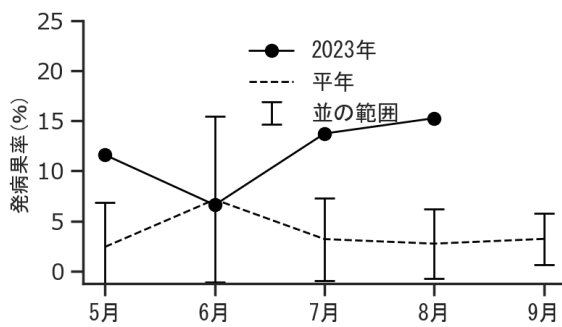
・発生初期の防除が有効であるので、被害葉が見られたら、薬剤散布する。



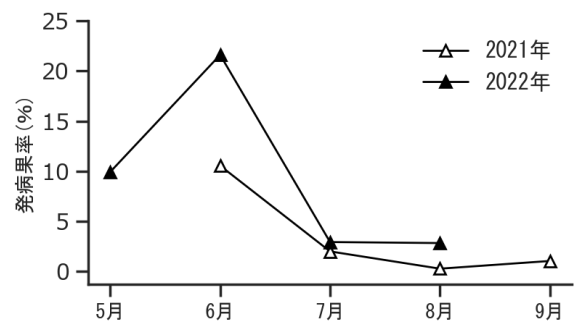
作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島	
病害虫名	そうか病				
調査結果	8 月の発生量（平年比）	多			
予 報	8 月からの増減傾向	→			
	9 月の発生量（平年比）	多			
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）			

調査結果

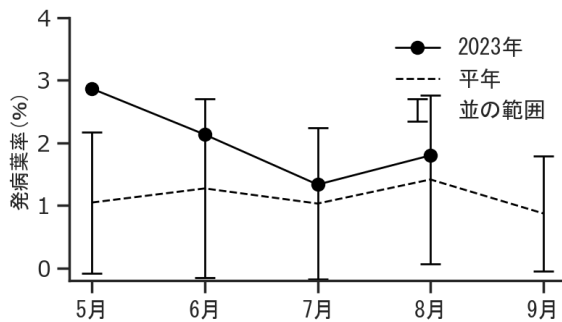
発病果率の推移（今期と平年）



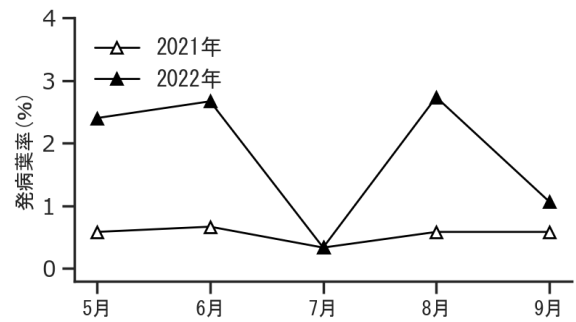
発病果率の推移（過去 2 年）



発病葉率の推移（今期と平年）



発病葉率の推移（過去 2 年）




- ・ 果実の発病度3.8（平年1.1）
- ・ 発生ほ場率40.0%（平年：56.8%）

防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

被害果→

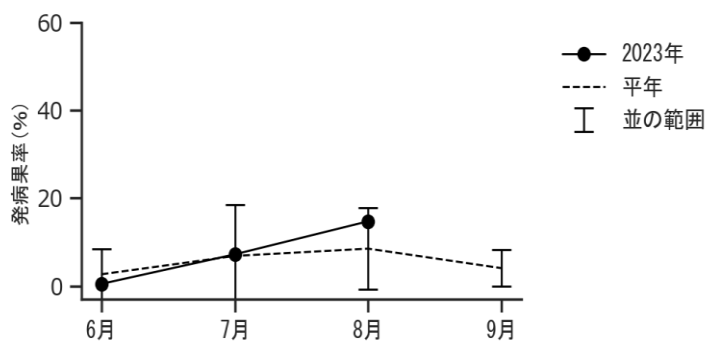


作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	黒点病		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並	
予報	8 月からの増減傾向	↓	
	9 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

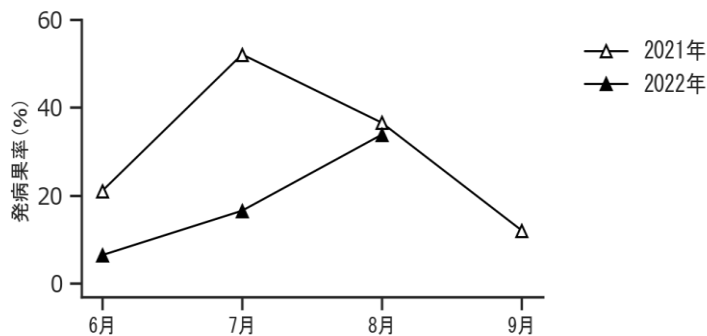
調査結果

発病果率の推移

<今期と平年>




<過去2年>



・発生ほ場率100%（平年：61.4%）

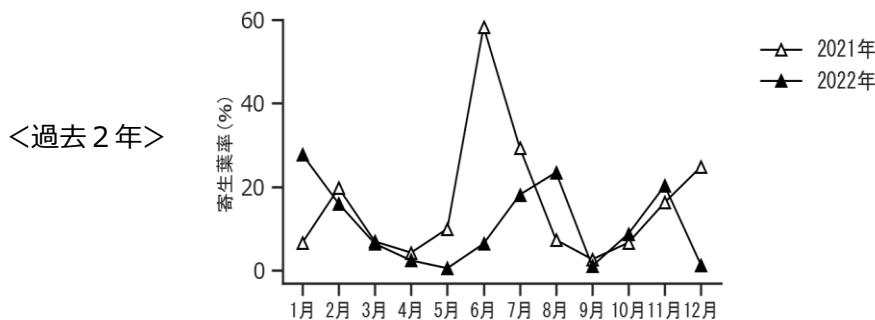
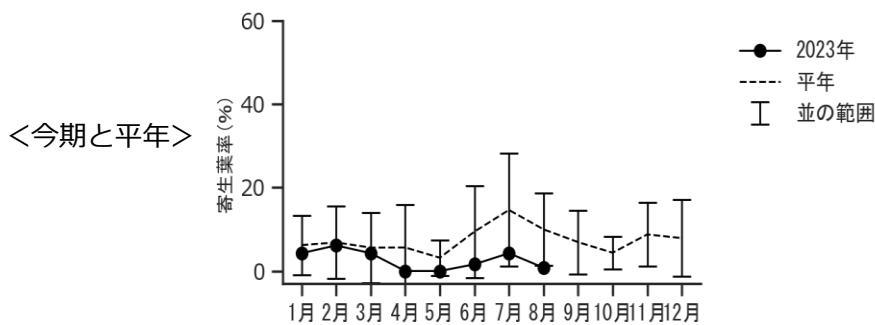
防除のポイント

- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	やや少	
予報	8 月からの増減傾向	↓	
	9 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果

寄生葉率の推移



- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率20.0%（平年：44.4%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



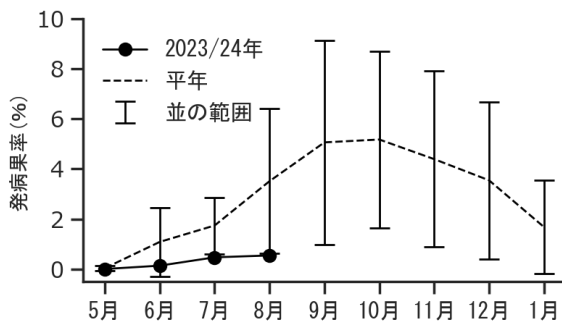
ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	やや少	
予報	8 月からの増減傾向	↗	
	9 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

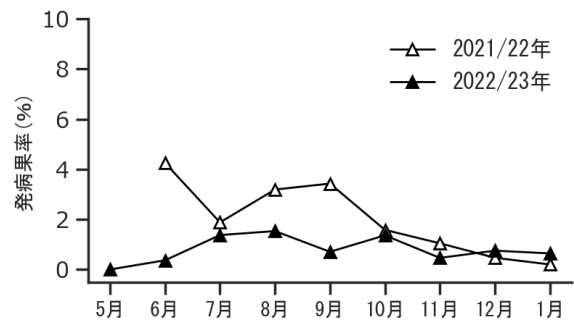


調査結果

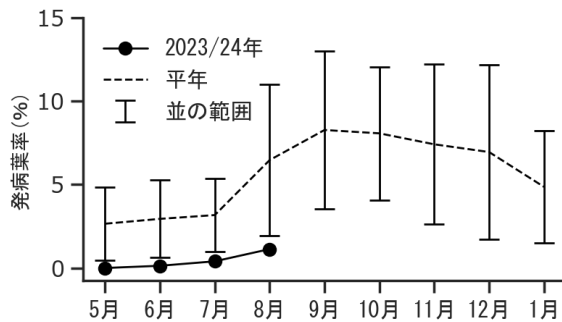
発病果率の推移（今期と平年）



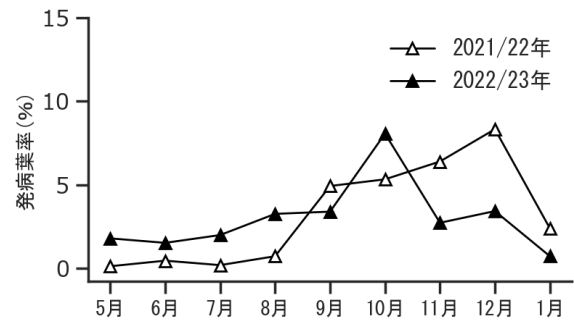
発病果率の推移（過去2年）



発病葉率の推移（今期と平年）



発病葉率の推移（過去2年）



- ・ 果実の発病度0.1（平年0.2）
- ・ 発生ほ場率80.0%（平年：69.6%）


防除のポイント

・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努め、被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

・ 罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口（風傷）は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。

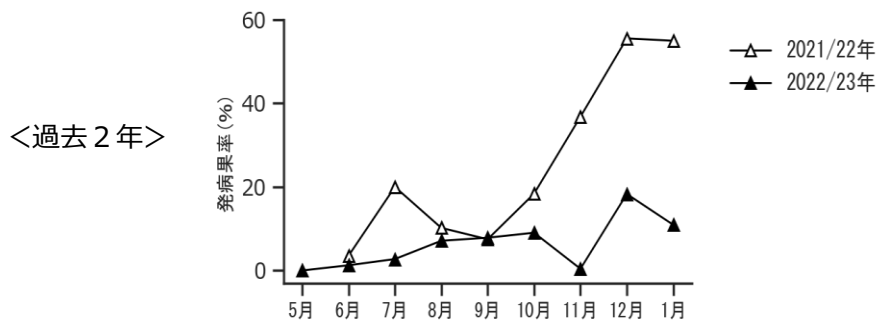
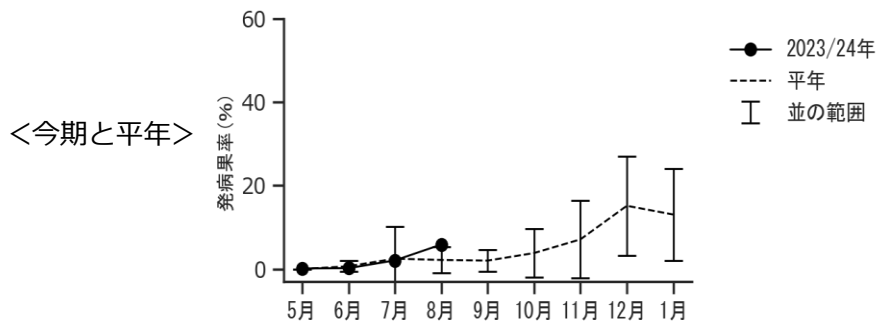


被害葉→

作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島	
病害虫名	② 黒点病				
調査結果	8 月の発生量（平年比）	やや多			
予報	8 月からの増減傾向	→			
	9 月の発生量（平年比）	やや多			
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）			

調査結果


発病果率の推移



- ・ 果実の発病度1.1（平年3.2）
- ・ 発生ほ場率80.0%（平年：45.7%）

防除のポイント

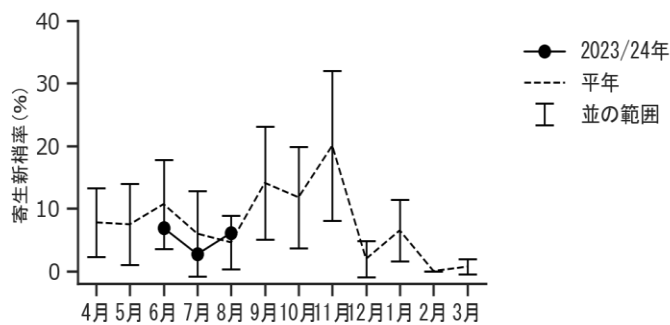
- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並	
予報	8 月からの増減傾向	↗	
	9 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

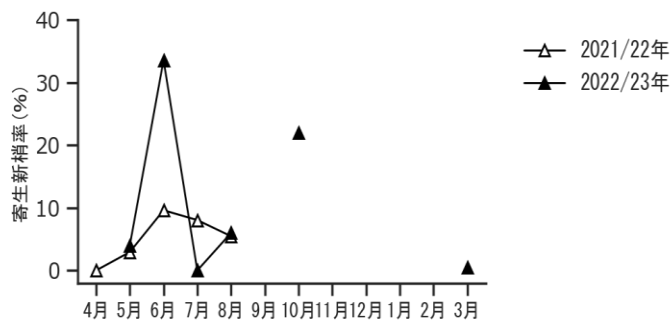
調査結果

寄生新梢率の推移

<今期と平年>



<過去2年>




・発生ほ場率40.0%（平年：46.2%）

防除のポイント

- ・新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。
- ・テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。

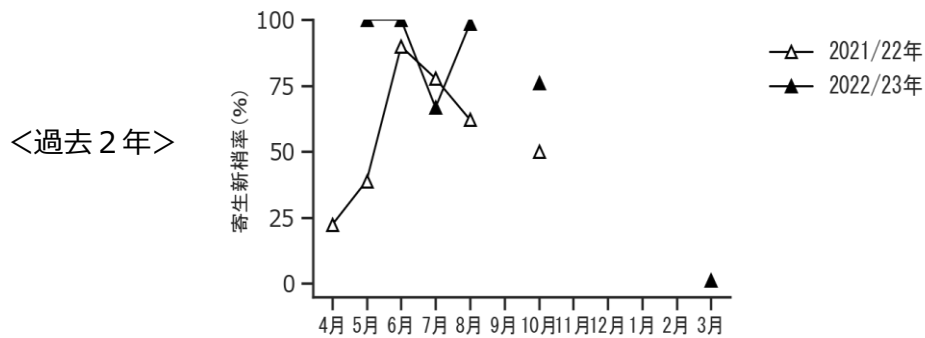
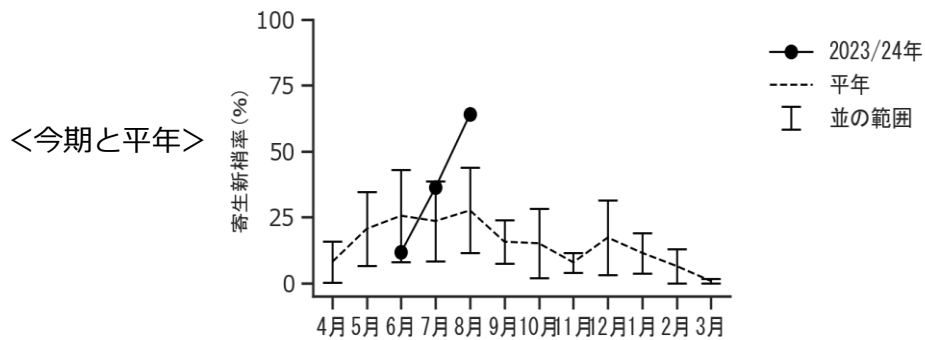


ユキヤナギアブラムシとアシジロヒラフシアリ

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	ミカンハモグリガ		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	8 月からの増減傾向	↓	
	9 月の発生量（平年比）	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果

寄生新梢率の推移



・発生ほ場率80.0%（平年：83.3%）

防除のポイント

- ・食害痕にかいよう病が感染して伝染源になるので、被害葉の除去に努める。
- ・被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。



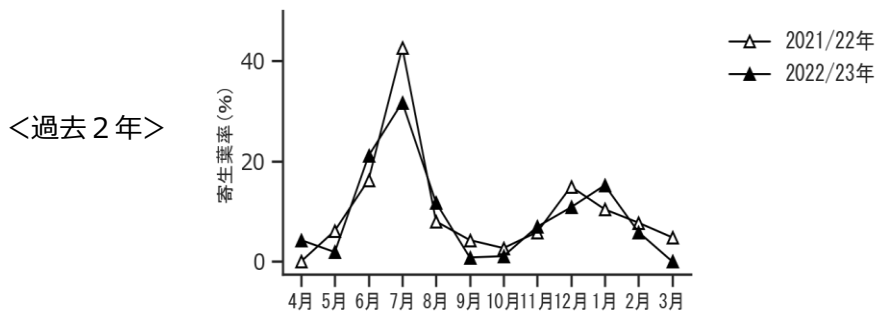
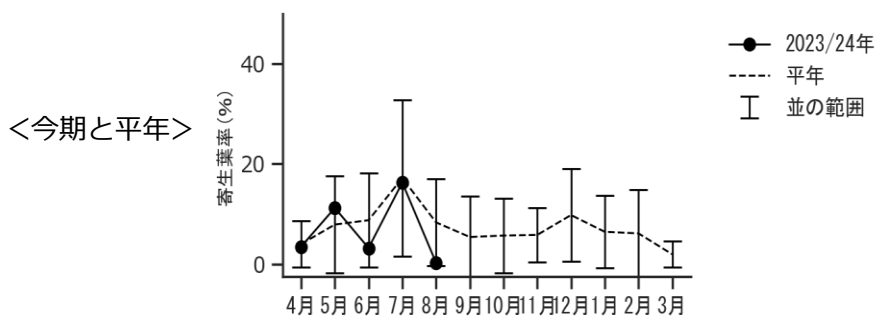
作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並	
予報	8 月からの増減傾向	↓	
	9 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	



ミカンハダニ

調査結果

寄生葉率の推移




- ・発生種：ミカンハダニ
- ・発生ほ場率20.0%（平年：54.3%）

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

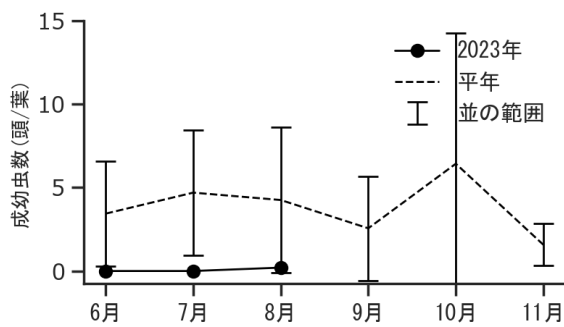


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

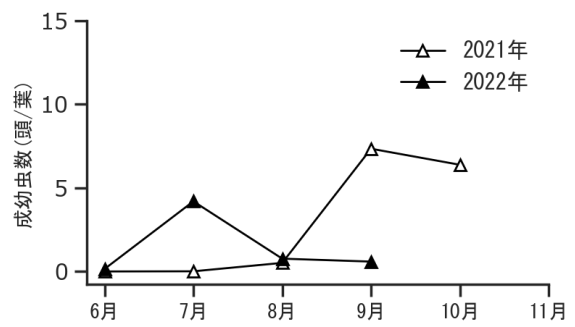
作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ			
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	8 月からの増減傾向	↓		
		9 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

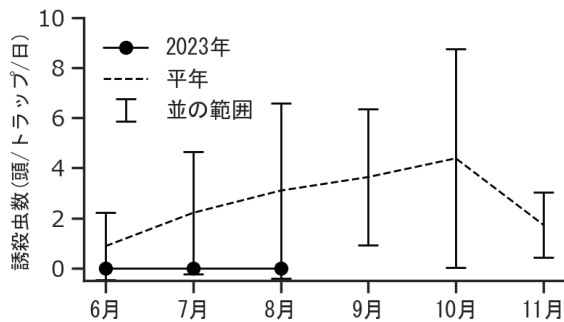
葉当たり成幼虫数の推移 (今期と平年)



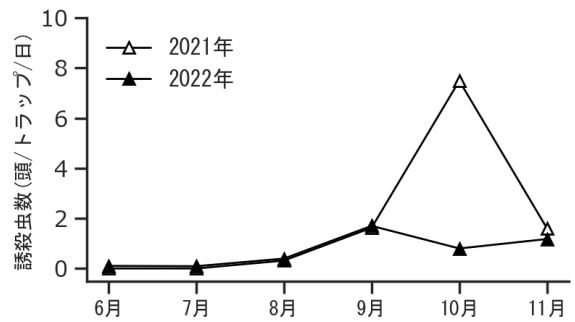
葉当たり成幼虫数の推移 (過去2年)



トラップ当たり誘殺虫数の推移 (今期と平年)



トラップ当たり誘殺虫数の推移 (過去2年)




・発生施設率25.0% (平年：82.7%)

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

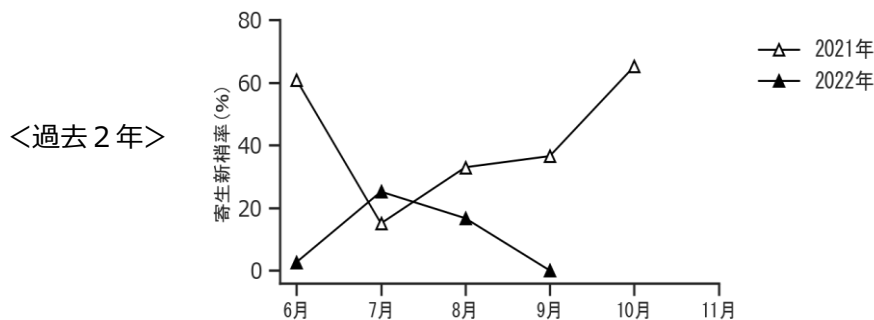
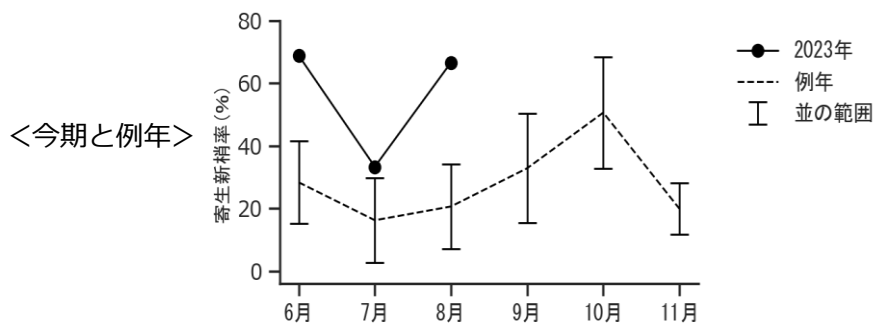


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
調査結果	8 月の発生量 (例年比)	多	
予報	8 月からの増減傾向	↗	
	9 月の発生量 (例年比)	やや多	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

寄生新梢率の推移




- ・発生施設率66.7% (例年：74.2%)
- ・一部施設で発生が多かった

防除のポイント

- ・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

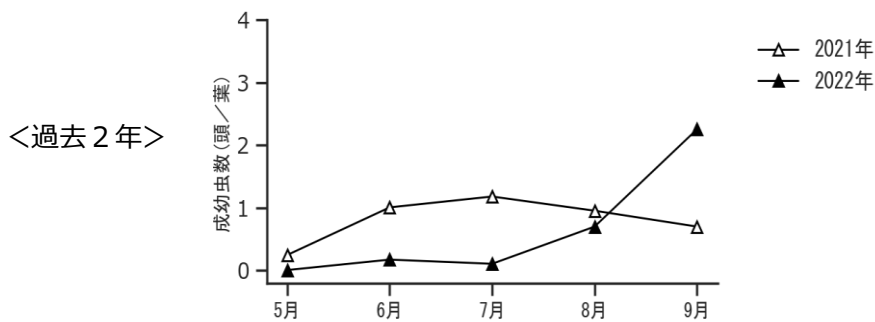
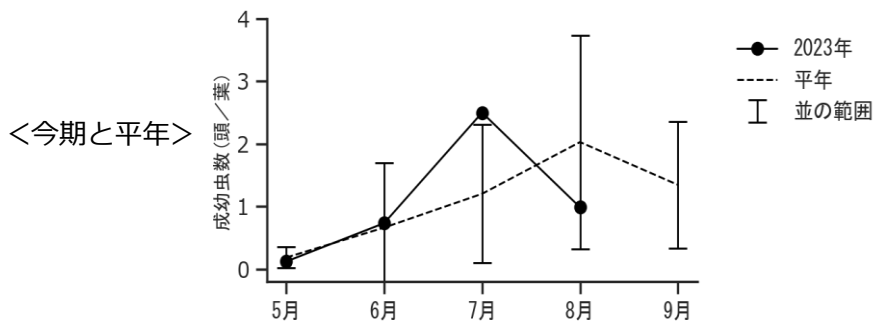


被害葉

作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	① フタテンミドリヒメヨコバイ			 成虫
調査結果	8 月の発生量 (平年比)	並		
予報	8 月からの増減傾向	↘		
	9 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)		

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率100% (平年 : 80.0%)

防除のポイント

・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

